

ゆりかご

えんだより

4期(1~3月)のねらい

2024-1-4

- ・表現活動を通して心を育てよう
- ・卒園・進級を期待しよう



旧年中は大変お世話になり、ありがとうございます。
大きな災害や事故に心を痛めた年明けとなつて
しまいましたが、2024年が穏やかな年となりますように!

ある日、おやつの時間に異年齢クラスに入った時のことです。

この日はお休みの子やお昼帰りの子が多く、5歳児のCちゃんはテーブルに一人で食べていました。私が見た時はもう食べ終わりそうな頃で、「あら、Cちゃん一人で食べていたの? 淋しかったね」と声をかけました。他のテーブルで食べる子たちに加わっても良かったのに。もっと早く気づけば良かったな”と、思っていると、他のテーブルで食べていた3歳児のHちゃんが振り向いて「C、後であそんであげるからね」と言ったのです。3歳児が5歳児を気にかけたことにかわいらしくて笑ってしまいましたが、Cちゃんが素直に「うん」と応えたことにも温かい気もちになりました。

ゆりかごが3歳から5歳児の異年齢保育を本格的に実施したのは、2006年です。それまでにも土曜日や行事の際に意図的に異年齢でのかかわりを大切にしてきましたが、乳幼児の成長や発達にとって、同年齢だけでなく異年齢の子と集団の中で共に育つ経験を十分に保障することが必要だと考えました。少子化が進み、子どもの数や兄弟の数が減り、生活する人や人とかわるかに弱さを感じ、異年齢保育の中でそういった力を育てたいと考えたのです。

本格実施がスタートする際、全保護者を対象に懇談会を行いました。それまでの保育体制と変わることに、多くの不安が出されました。一つ一つ不安を解消していき、新年度がスタートする4月ではなく、6月から異年齢保育を始めました。

今では3歳から5歳児が、兄弟のように名前を呼びあい、年齢を超えて誘い合ったりあそぶ姿が自然と生まれてきました。実施する際に、保護者が一番心配していた『小さい子に対する接し方』も自然に身につけてきていると思います。

1月23日からは5歳児のぞう組が異年齢から抜け、単独クラスになります。その同じタイミングで、2歳児のあひる組が異年齢クラスに仲間入りします。これからどんな年齢を超えたかかわりがみられるのか... とても楽しみです。